

『子ども読書活動推進フォーラム2016 読書でつながれ！いちほらっ子』報告

小春日和が続く暖かな日、市原市勤労会館におきまして『子ども読書活動推進フォーラム2016』が行われ、子育て世代のお母さんやお孫さんたちに読み聞かせをなさっている方々を中心にたくさんの方にお集まりいただきました。



中央図書館館内ではプレイベントとして、フォーラム実行委員会による展示が壁いっぱいになり広がられました。エントランスホールに原ゆたかさんの原画展や「みんなのゾロリ大集合！」と称した子どもたちの塗り絵や似顔絵展が来館者の注目を浴びていました。また、第1フロア 中央通路には、10年の歴史を語るフォーラムのポスター展示がありました。

そうして迎えた12月7日、市原市勤労会館にて『子ども読書活動推進フォーラム2016』が行われ、児童文学作家の原ゆたかさんによる「うちの子なんで『ゾロリ』が好きなの？～作者が読み解く人気のヒミツ」と題した講演会を開催しました。

小さいお子さんから、おじいちゃんやおばあちゃん、また、子どもの読書教育に関心をもつ方など総勢124名の参加がありました。



御講演では、原さんから次のようなお話がありました。

「本が嫌いな子が楽しく読める本を書こうと考えています。小学校の時こういう本が欲しかったな、あれが楽しかったなということの本にしたいなと思って書き続けてきたところ、ゾロリシリーズは60巻にもなっていました。そのうち、『うちの子はゾロリしか読まない、困ったもんだ』と大人たちが言う様になって、『ゾロリしか読まないゾロリ病』とか呼ばれるようになりました。『子どもたちが本を読まなくて困る』とか、みんな『活字離れで本を読ませたい』って言ってたんじゃないの？と疑問に思うようになりました。なんか大人は心配ばかりするのです。」

「私は、何か困ったことがあった時、自分の努力で何とかしないと人生の面白味がないなと思っています。水戸黄門が助けに来てくれて、問題解決ではつまらない。また、子どもたちにとっても人気のあるTVアニメ、例えば『ワンピース』等でも何でも、“戦いや殺し合う”場面が多すぎると思うし、おもちゃ屋さんからは「販売につながるからゾロリにも武器を持たせて欲しい」と言われます。ウルトラマンやヒーロー戦隊ものは1年で変わります。それはおもちゃメーカーの販売の仕組みがそうなっているからで、どんなに良いおもちゃでも寿命は1年です。作者としてはいいおもちゃを長く使ってほしいと考えるので、相性が悪いわけです。そこで結局ゾロリの武器となるのは、おならとオヤジギャグで寒いと震えさせるといったことになるわけです。私は“戦い”をさせないで60巻もよく書いたなと自分で自分を褒めています。連載の最初、ゾロリは“敵”役だったのですが、“敵”にも理屈があるから“憎まれない敵”にしたいということでやってきました。」この他、それぞれの作品にちりばめられた様々な仕掛けについてなどをスライドを見ながらお話してくださいました。



また、質疑応答にも懇切丁寧にお答え頂きました。一人の質問に10分以上もかけた熱心なお答えで、時間が過ぎて司会者が「あと1人」と言うところを「後2人に」とおっしゃるほど時間を気にしないサービス精神の旺盛さでした。そうして終わり間近には小学生が手を上げているのを目ざとく見つけ、質問を聞き、答えていらしたのには感動させられました。こうして素晴らしい雰囲気のまま閉幕となりました。

また、質疑応答にも懇切丁寧にお答え頂きました。一人の質問に10分以上もかけた熱心なお答えで、時間が過ぎて司会者が「あと1人」と言うところを「後2人に」とおっしゃるほど時間を気にしないサービス精神の旺盛さでした。そうして終わり間近には小学生が手を上げているのを目ざとく見つけ、質問を聞き、答えていらしたのには感動させられました。こうして素晴らしい雰囲気のまま閉幕となりました。